令和８年度　授業改善推進プラン

＜教科名　英語科　＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】

	第１学年	第２学年	第３学年
学力分析	定期考査や小テストから、初見の英文の内容を聞き取ったり、読んだりする問題は、正答率 80 パーセントを超えている。一方で、書く問題（語彙、並び替え、英作文）の正答率は 60 パーセントで、比較的に苦手としている生徒が多い。	定期考査や小テストから、並び替え問題や単語の書き取りなど、英語を正しく使うことに苦手意識を感じている生徒が多い。一方で、やり取りなど即興で英語を使ってコミュニケーションを取ることは得意としている生徒が多い。	定期考査や小テストから、読むこと（初見の英文読解）や書くこと（自分の意見を伝えること）に苦手意識を感じている生徒が多い。一方で、聞くことに関する問題は比較的得意としている生徒が多い。
学習状況	９６％の生徒が意欲的に授業に取り組んでおり、ペアワークなども積極的に英語を使って取り組んでいる。一方で、家庭学習に関しては、定期考査前は多くの生徒が取り組むが、習慣的に取り組む生徒は少ない。	授業は積極的に取り組む生徒が多いが、家庭学習の定着度は低いため、授業で理解できたことが十分に身に付いていない生徒が多い。	ほとんどの生徒が集中して授業に取り組めていて、積極的に取り組む生徒が多い。しかし習慣的に家庭学習に取り組めている生徒は少ない。
生徒アンケートの結果より	授業に積極的に参加している生徒は９割を超えているのに対し、１日平均１時間以上書いて学習に取り組んでいる生徒は６割程度である。家庭学習の習慣化が必要である。	授業には積極的に参加していると答えた生徒は９５％程度に対し、１日平均１時間以上の学習に取り組む生徒は６０％程度である。	「授業には積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は９割を超えているのに対し、「平均して１日１時間以上学習に取り組んでいる」と答えた生徒は６割程度である。

【授業改善の手立て】

	第１学年	第２学年	第３学年
改善計画	生徒が既習事項を繰り返し使えるような授業づくりをする。また課題が作業ではなく、学習内容の定着が目的であることを再度生徒に周知し、目的をもって授業・家庭学習に取り組めるようにする。	今までの活動に加え、音読に力を入れ、英語を正しい語順で理解できるように工夫する。また家庭学習を習慣づけさせるために、目的を再度伝えるとともに、家で振り返りたいと思える授業を目指す。	今までの活動に加え授業内で初見の英文を読む機会や、自分の考えを英語で表現する活動を継続的に取り入れる。さらに、授業で学んだ内容を家庭でも復習できるよう、短時間で継続して取り組める家庭学習を提示し、学習習慣の定着を図る。
評価方法	定期考査や学期に１回以上のパフォーマンステストなどを通して、学習内容の定着度や家庭学習への取組の様子を計る。	日頃の授業への取組や定期考査の結果などを通して、学習内容の定着度や家庭学習への取組の様子を計る。	定期考査や小テストにおいて、初見の英文を読んで内容を把握する問題や、自分の考えを英語で表現する問題を継続的に設定し、読むこと・書くことの力の伸長を評価する。また、授業中の音読・ペア活動・言語活動等への取組状況を観察するとともに、ワークシートや英作文等の成果物を評価する。